

「認知症」シリーズの第4回目です。

今回は、認知症の状態変遷についてご紹介いたします。
ご存知のように現代の医学では認知症を治すことはできません。しかし、その状態症状を理解することで、介護される方もする方にも適切な方法があることを知っていただきたいと思います。

認知症の
基礎知識

若年性認知症
について

認知症の
診察と施設

認知症の状態
変遷と対応

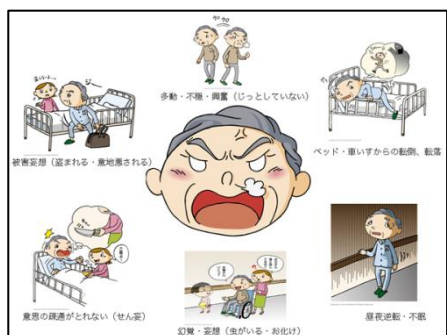
認知症対応
新薬と事故

国の対応

認知症の状態変遷と対応

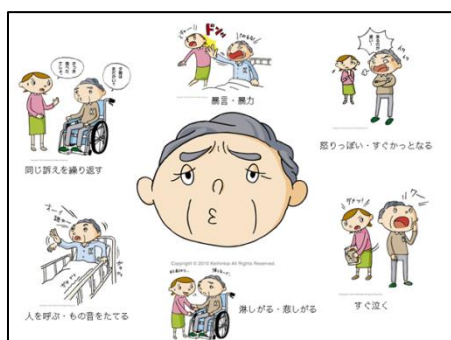
東京大田区にある、京浜病院の資料をお借りしています。(HP)
認知症の状態変遷の状態や見極め方、また対処方法がわかりやすく記載してあります。
(文責: 北村弘之)

【険しい表情で時に危険行為がみられる：混乱期】



	混乱期
見極め方	顔つき、形相に変化。眉間にしわを寄せ、険しく困ったように見える
状態	周りとコンタクトが取りにくくなり、危害が加えられるのではないかと感ずる。何を言っても聞き入れられず、会話も成立しないことが多くあります。夜間せん妄や危険行為が見られます
対処法	安心感を与えてあげること
介護方法	むやみに身体には触れず、不必要な介入は控えます。暴れるからといって、抑制したりするとますます脅威を感ずるので、周囲の危険物を取り除いておく。横や後ろから介助します

【周りの気を引こうとしたり甘えたりする：依存期】



	依存期
見極め方	自分に注目が集まることをします。声を出したり、音を立てたりして人が来るまで呼び続けます。
状態	過度の依存心と甘えがあり、声を出したり、音をたてたりして自分に注目が集まることをします。大勢の中にいると精神的に落ち着き、依存的訴えも少なくなります
対処法	一人にしないように努めます
介護方法	人が見えるところ、声が届くところにお連れします。執着心が強かつこくなり、同じ話を繰り返すことがあります。無視せず根気よく聞くことが大切です

【妄想の世界に浸り表情は穏やかになる：昼夢期】



	昼夢期
見極め方	穏やかな顔つきになり、笑顔が見られるようになります。また挨拶もしてくれます。
状態	元気がなくなったように見えます。死んだ母親を探したり、昔自分の家にあったものを持ってきてと言います。時間の概念が無く、表情は穏やかで笑顔も見られるようになります。
対処法	ご本人の好きなように生活をさせてあげます。
介護方法	自分で作った夢や妄想の世界にいたいので、否定したり壊したりしないことが大切です。話にはうなずきながら聞き入れてあげます。

●お問合せはこちらまで

info@y-welfare.com

Welfare

北村 社会福祉士事務所 (北村 弘之)

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目7-7

TEL: 045-924-1777 http://www.y-welfare.com